

ア ク サ 生 命
日本ユネスコ協会連盟 「減災プログラム」活動報告会

災害の教訓から学び被害風化防ぐ

教員20人が自校の取組報告

アクサ生命は2月22日、東京都港区の同社会議室で、「アクサユネスコ協会減災教育プログラム」の活動報告会を開催した。今回で5回目となる報告会には、18年9月に東日本大震災の被災地である気仙沼・石巻で現地研修を受けた助成校から教員20人が参加し、被災地で実施した教育研修会から得た学びを自校の減災・防災教育にどのように生かし、子どもたちのどのような力を育んだかについて各校が報告した他、各自が意見交換を行い知見を共有した。

同プログラムは、今後、日本各地で発生する可能性のあるさまざまな自然災害に備えるために、防災・減災教育の強化・改善を検討している小・中・高等学校をサポートする。また、災害時に地域の



鈴木氏



幸本氏

重要な防災拠点となる「学校」の防災力の向上を目指して、従来型の避難訓練が中心の防災活動だけではなく、災害に対して総合的な視点から実効性の高い防災・減災教育の実践を推進している。

具体的には、①防災・減災教育に取り組む学校への助成金(10万円)の支給②助成校の教員を対象に東日本大震災の被災地で大震災の経験や教訓を基にした防災・減災教育の実践を学ぶ研修会の実施③実践発表やワーク



参加者はアイデアなどを話し合った

事長は、「東日本大震災から8年が経過して、われわれができることは、過去の災害の教訓を風化させず、被災経験から学んだ災害に備える取り組みを怠らないことだ」と述べた。

また、同プログラムについて、過去の学びを共有し、減災教育の強化や

シヨップを通じ、地域や校種を超えて多彩な実践を学ぶ合つ報告会の実施の一環として構成されている。開会あいさつで、日本ユネスコ協会連盟の鈴木佑司理事は、「東日本大震災から8年が経過して、われわれができることは、過去の災害の教訓を風化させず、被災経験から学んだ災害に備える取り組みを怠らないことだ」と述べた。

来に生かし続けることができるとの考えを示した。

また学校は、災害発生時に子どもの命を守るという重要な役割を担う。同氏は、「教育」が子どもたちに気付きを与え、自ら判断して行動するといふ知恵・能力、勇気を身に着ける上で重要な役割を果たすことに言及し、「学校における減災、防災活動を強化すること、地域の総合的な防災力向上に貢献したい」と展望した。

この他、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課防災教育係長の中鉢晶子氏が「新学習指導要領における防災教育について」をテーマに特別講話などを行った。

「9月の教員研修会の学びを活かして5カ月間実践した成果と課題」をテーマに、想定した災害に基づき、活動内容、活動の特徴、工夫した点、子どもたちの変化・成長、

この他、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課防災教育係長の中鉢晶子氏が「新学習指導要領における防災教育について」をテーマに特別講話などを行った。